

四季折々の詩

麻里布中学校
令和8年2月13日 No.255
Tel 22-2234 FAX 22-2235



令和8年スタート

1月8日、長い冬休みが明け、令和7年度の締めくくりとなる三学期が始まりました。式に先立ち生徒会長から、「新しい年のスタートとして大切な式です。よい雰囲気を作りましょう。」と呼びかけがあり、厳粛な雰囲気に包まれました。校長は、「午年には『元気いっぱい進める年』『努力が実りやすい年』といった、意味があると言われていいます。でも、ただ速く走ればいいわけではありません。馬が走る時には、行く先をしっかりと見て、転ばないように歩幅を調整しながら走ります。『勢いよく進むこと』と『考えて進むこと』はどちらも必要だということです。勉強や部活動、委員会や係の仕事、あるいは友だちとの関わりなど、毎日の中には“がんばりどころ”がたくさんあります。今年は、馬のように前へ進む力を大事にしつつ、『今、どうするのが一番いいかな』と考えることも忘れないでほしいと思います。皆さんがこの一年、馬のようにまっすぐに、力強く、そして自分の道を見失わずに歩いていけるよう願っております。心身の健康に気をつけながら、実り多い学校生活をともに築いていきましょう。」と式辞を述べました。



生徒会執行部活動方針検討

生徒会執行部の発足にあたり、冬休みにリーダー研修会を開催しました。まずは、12月に生徒と保護者を対象に行ったアンケートの結果から学校の現状と課題を把握しました。そこから、生徒会として何ができるのかを時間をかけて話し合いました。



生徒・教職員・地域の方々に学校づくりについて検討

1月29日、学校運営協議会と学校保健委員会に生徒会執行部と教職員・育友会・地域の方を加え、学校づくりについての話し合いを行いました。生徒会執行部は、前述のリーダー研修時から生徒会として何をめざすのか、そのためにどのような活動を仕組んでいくのかを考え、この会を迎えました。生徒は、大きな課題の一つは「地域とのつながり」と考え、どのようにして地域とつながっていくのかをテーマに話し合いに臨みました。自分たちの進む方向を自分たちで考え、自分たちで運営していこうとする姿に、参加した大人は感心させられ、「もっと頑張らないといけない。」と話されていました。参加した生徒は、「大人と話をして考えが広がった。」「考えが深まった。」「また、一緒に話したい。」といった感想をもっていました。

生徒が主体となった学校づくりが着実に進められています。



立志式及び講演会「10年後の自分のために行動を」

2月10日、学校運営協議会主催による2年生の立志式が行われました。

松川会長は式辞の中で「人との出会いを大切にしてほしい。また、立志式を自分を見つめ直す機会としてほしい。」と話されました。その言葉を受け、学年合唱「明日へ」を見事に歌い上げました。



立志式の中で、東雷太郎さんを講師に迎え、「勉強は将来の自分へのプレゼント」と題して講演が開催されました。雷太郎さんは、特技のマジックを交え、巧みな語り口調で生徒を引きつけ、あっという間の50分となりました。

雷太郎さんは、お話の中で、

「『好き』『得意』『社会に必要』の3つの要素の中で、生活できれば自分の幸せにつながる。そのために、様々な経験をすることが大切である。

すぐに役に立つことは、すぐに役に立たなくなる。今の勉強は、必要ないと思っても、いずれ役に立つときが来る。基礎的なことは必ず役に立つ。」



スマートフォンのOS（オペレーション・システム）に例えられ、「同じアプリを操作しても、新しいOSで動く機種ではサクサク動くけど、古いOSで動く機種では動作が滑らかではない。みなさんが今行っている勉強は、OSの機能を高めていることと同じである。」と話されました。



3年生目標に向かって

1～3月は、高等学校等の入試が行われます。3年生にとっては、自分の目標の実現に向けて初めて迎える試練であり、不安と緊張の中で生活しています。1月には、入試で実施される面接に向けて、学校運営協議会委員や同窓会員による面接練習を行いました。初めて出会う人との面接のため、生徒は本番さながらの緊張感で練習していました。

また、自ら校長先生や教頭先生、3年部の先生に練習をお願いするなどして、質を高めていました。

2月4日には山口県公立入試制度で初めてとなる「特色選抜入試」が実施され、志願倍率は、1.4倍でした。一般入試は、2月13日から出願となり、3月5日が学力検査、3月12日が結果通知となります。

